

機能充実の地図サービス まずは基本をおさらい

●地図サービスの用途が格段に広がっている

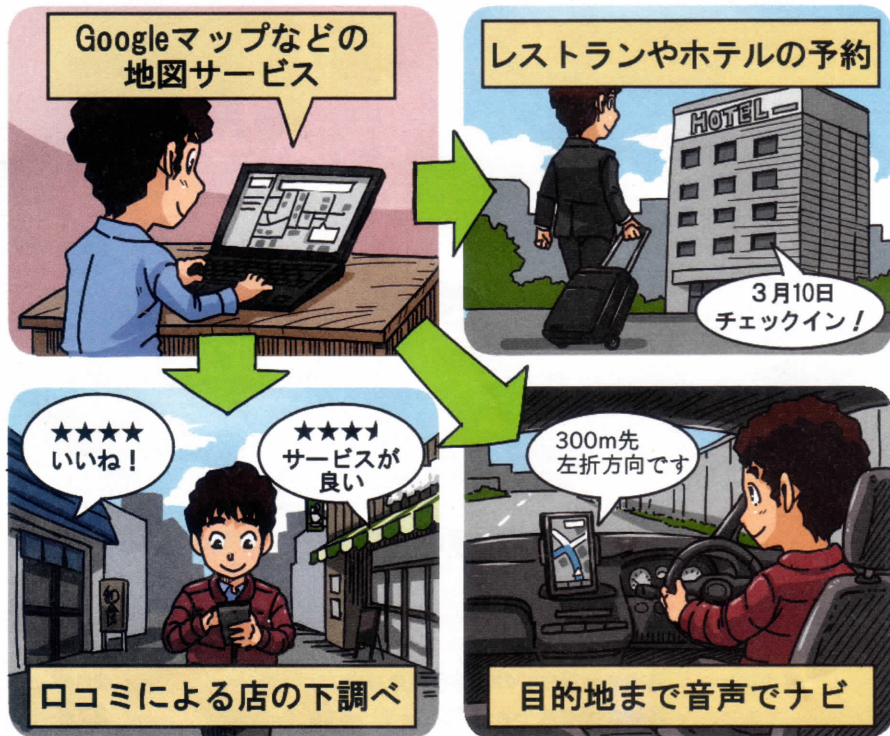


図1 地図サービスの機能は経路検索だけではない。地図上から店の下調べや予約ができるようになってきている。スマートフォンの音声ナビとしても利用可能だ

無料ながらとても便利な地図サービス。調べたい場所や施設を瞬時に検索でき、目的地までの経路検索もお手の物だ。紙の地図帳やロードマップと違い、地図データは最新のものを常に利用できる。スマートフォンと組み合わせれば、外出先でも利用可能になる。

サービスの選択が重要

地図サービスの機能は日進月歩。ここ数年でぐんと向上している(図1)。とりわけ便利なのが、ユーザーの口コミ機能。評判のレストランやおいしいラーメン店などを簡単に探し出せる。外部のWebサービスとの連携も進んでいる。例えばホテルを検索すると、旅行ガイドサイトのリンクが表示され、即座に予約ができる。スマートフォンやタブレット

●主要な地図サービス一覧

| 運営企業 | 米グーグル | ゼンリンデータコム | ナビタイムジャパン | 米マイクロソフト | マピオン | ヤフー |
|-------------|--------------------------|------------------|------------------|-------------------|------------------|------------------|
| サービス名称 | Googleマップ | いつもNAVI | NAVITIME | Bing Maps | Mapion | Yahoo!地図 |
| 経路検索 | 自動車、徒歩、交通機関、自転車、航空機 | 自動車、徒歩、交通機関 | 自動車、徒歩、交通機関、自転車 | 自動車、徒歩、交通機関 | 自動車、徒歩、交通機関 | 自動車、徒歩、交通機関、自転車 |
| 施設検索 | キーワード、ジャンル(3分野) | キーワード、ジャンル(19分野) | キーワード、ジャンル(91分野) | キーワード、ジャンル(6分野) | キーワード、ジャンル(22分野) | キーワード、ジャンル(74分野) |
| 標準地図以外の表示形式 | 衛星写真、地形図、路線図、ストリートビュー、3D | 徒歩用地図 | 衛星写真 | 衛星写真、概観図 | 地形図 | 衛星写真、地形図、路線図 |
| 地図上で提供する情報 | 渋滞 | 終電時間 | 渋滞 | 渋滞 | 天気、風速、気温など | 渋滞、雨雲、台風など |
| 外部サイト連携 | 一休.com、食べログなど | ぐるなび、るぶトラベルなど | ぐるなび、じゃらんなど | トリップアドバイザー、食べログなど | ホットペッパー、るぶトラベルなど | Yahoo!口コミ |

図2 場所の検索で指定できる施設や地図上で提供される情報内容はサービス間で差がある。最近では外部の情報サイトと連携して飲食店や旅情報などを提供する地図サービスが増えている

●全ての機能を利用するにはユーザー認証が必須

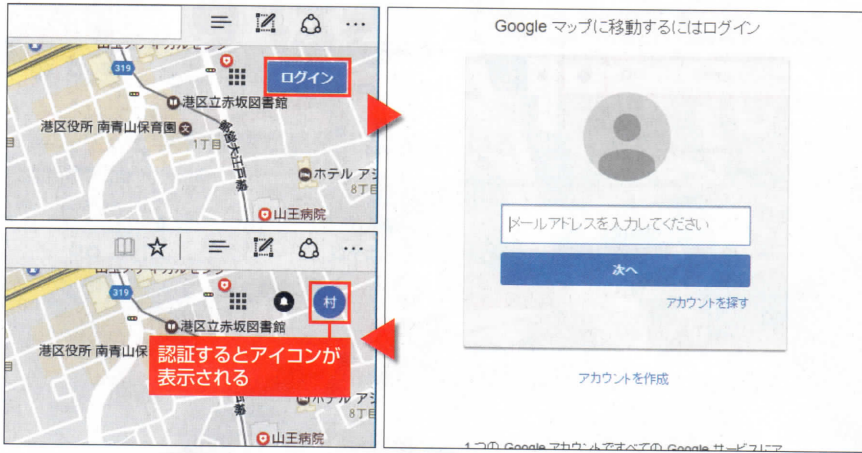


図6 上の図はGoogleマップのアカウント認証手順。大半の地図サービスは会員登録をしないとスマートフォンとの連携など一部機能を利用できないようになっている。利用前に必ず認証を済ませておこう

●パソコンで調べて、スマホで確認



図7 パソコンで場所を検索して「別のモバイル端末に送信」をクリックすると、該当地点の位置情報が同一のアカウントでひも付けしたスマートフォンに転送される

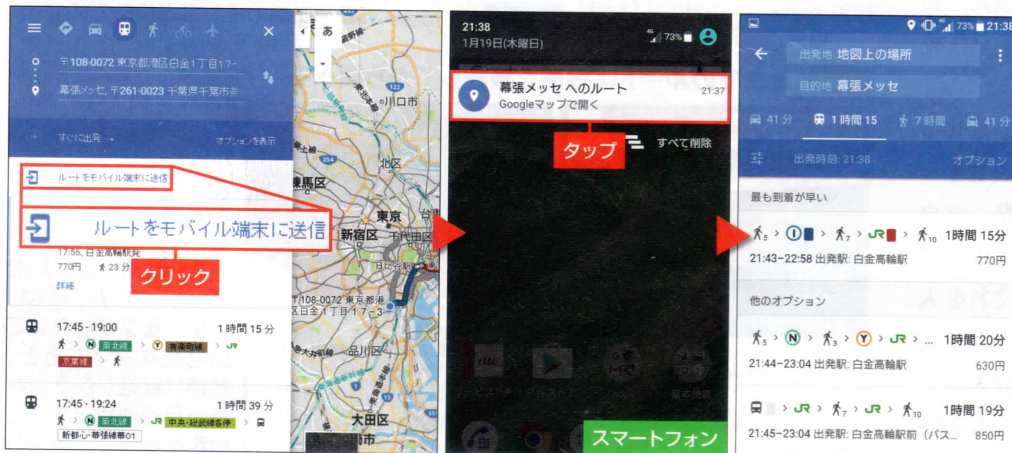


図8 経路検索の結果も同一アカウントのスマートフォンに転送可能だ。パソコンで経路検索を実行して「ルートをモバイル端末に送信」をクリックすればよい

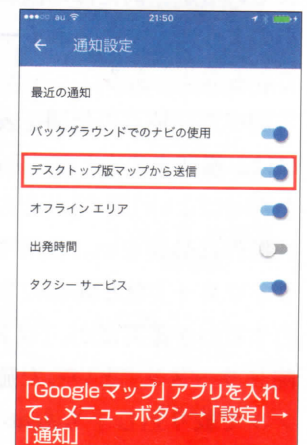


図9 検索結果をiPhoneで受信する設定画面

候補の一覧から一致するものを選ぶと、地図の表示が該地点の周辺にまで移動する。

目的地までのルート調べる経路検索も地図サービスでよく利用される機能の一つ。土地勘のない場所を訪れる場合でも、事前に経路検索でルート調べておくと安心感が得られる。Googleマップの場合、目的地を検索してから検索欄の右にある矢印の「ルート・乗換」ボタンをクリックすると、経路検索機能に切り替わる(図5)。移動手段を「徒歩」「自動車」「交通機関」の3通りから選び、出発地を設定すると、最適なルート候補が表示される。

スマホ連携はログイン必須

地図サービスを利用して便利さを大いに実感できるのがパソコンとスマートフォンの連携だ。Googleマップでは、スマートフォンと同じアカウントでログインすることで、検索結果をスマートフォンでも見られるようになる(図6)。自宅や職場のパソコンで調べた場所や経路をスマートフォンで確認できるようにし

ておけば、外出先で迷う心配がない。検索結果を転送する方法は複数あるが、Googleマップ標準の「モバイル端末送信」機能を利用すると操作の手間が少ない。

検索した場所は詳細画面にある「別のモバイル端末に送信」、経路検索の結果はルート一覧にある「ルートをモバイル端末に送信」をクリックすると、それぞれスマートフォンに転送される(図7、図8)。スマートフォンの通知画面で、通知をタップすれば検索結果を確認できる。

なお、iPhoneには地図アプリの「マップ」アプリが標準で組み込まれているが、無料の「Google マップ」アプリをインストールすることで、Googleマップも利用できる。検索結果を受信するには、設定画面で「デスクトップ版マップから送信」を有効にする(図9)。

地図上の場所を映像化

訪れたことがない場所の街並みや風景を事前に下見できるのも地図サービスならではの。最近は多くの地図サービスが衛星から撮影した写真を用意しており、簡単に切り替えられる(図10)。Googleマップは表示に傾斜を付ければ、建造物の形状なども一目瞭然だ。

Googleマップのユニークな機能が「ストリートビュー」(図11)。「ペグマン」と呼ぶ人形のアイコンをクリックして道路をクリックすると、歩行者や運転手の視点で地図上を移動できるようになる。ただし、映像が用意されているのは青い線が表示されている部分だけ。それ以外の部分だとクリックしても何も反応しない。

●衛星写真に切り替えて上空から見渡す

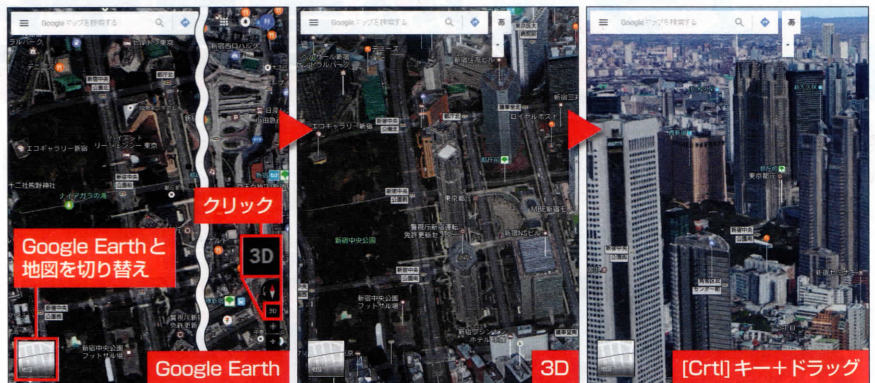


図10 Googleマップ画面の左下にある「Earth」をクリックすると衛星写真に切り替わる。さらに「3D」を押すと風景に傾斜が付き、マウスで操作すると視点を自由に換えられる

●実際の視点で道程をたどれる「ストリートビュー」



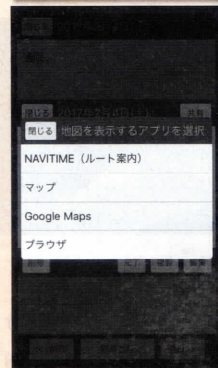
図11 Googleマップ画面の右下にある「ペグマン」をクリックして、表示される青いラインをクリックすると歩行者視点または運転手視点の「ストリートビュー」に切り替わる



iPhoneはGoogleマップが使えない?

iPhoneを所有するWindowsパソコンのユーザーは多い。ところが、iPhoneの標準機能では、Googleマップなど他社の地図サービスと連携できない。例えば、標準の「カレンダー」アプリに訪問先などの場所を記入すると、該地点が標準の「マップ」アプリで表示される。パソコンでGoogleマップに使い慣れていると、勝手の悪さを覚えてしまう。GoogleマップをiPhoneでも積極的に利用するなら、Googleマップとの連携に対応したサードパーティ製アプリを検討しよう。

ジョルテカレンダー
(無料、一部機能は課金あり)
メーカー:ジョルテ



図A 高性能な予定管理アプリ。カレンダー内に入力した住所を「Googleマップ」で開く機能がある

最適なルートを素早く検索 スマホなら音声ナビで楽々

1 自宅や職場の経路を簡単検索

●Googleマップで住所を事前登録する



図1 経路検索は出発地と目的地を毎回設定する必要がある。自宅や職場を事前に登録しておくで時間が省ける



図2 Googleマップでログインした状態で経路検索のアイコンをクリックする(左)。自宅と職場の項目が表示されるので「場所の設定」をクリックして住所を登録する(右)

●スマホなら1タップで即座にルートが分かる



図3 Androidスマートフォンの多くは、Googleマップの経路検索を簡単に実行できるショートカットアイコンをホーム画面に配置できる

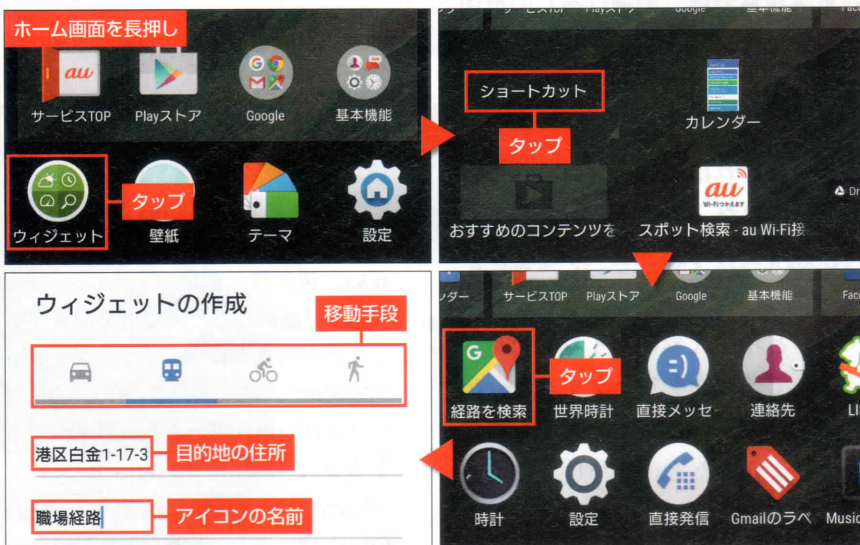
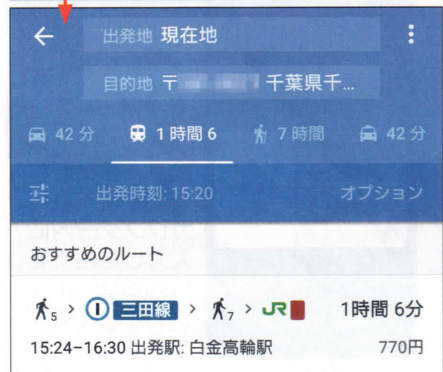


図4 経路検索のショートカットアイコンを作成する手順の例。上の図はXperia Z3 (auのSOV33)のものだが、Android 6.0以降の端末なら同様の手順で作成可能だ

土地勘のない場所での待ち合わせは不安が常に伴う。大事な人との約束ならなおさらだ。目的地へ時間に余裕を持って到着したいなら経路検索を活用しよう。乗り換え案内を提供するサイトはいくつかあるが、照会できるのは交通機関だけだ。地図サービスの経路検索なら目的地や出発地を住所や施設名で指定して、ドア・ツー・ドアで調べられる。

ただ、出発地と目的地を毎回入力するのはやや手間だ。通常、経路検索で調べるルートは、自宅か職場が基点となることが多い。Googleマップの場合、アカウントでログインすると、経路検索時に自宅や職場の住所を登録可能になる。事前に設定しておけば、出発地や目的地として即座に選べて便利だ(図1、図2)。

Androidスマートフォンなら、現

在地から自宅または職場までのルートにより手軽に調べられる(図3)。ホーム画面で「経路を検索」のショートカットを作成し、移動手段と住所、アイコンの名前を入力すればよい(図4)。できたアイコンをタップするだけで経路検索が実行される。なお、iPhoneは標準だと経路検索のショートカットを作成することはできない。

楽なルートを条件で選ぶ

Googleマップの経路検索で表示されるルートは、所要時間や移動距離が最短であっても、必ずしも移動が楽なルートとは限らない。疲れているときや荷物が多いときなど、乗り換えの回数や徒歩にかかる時間を抑えたい場合は、検索したルートの一覧画面で「オプションを表示」をクリックする(図5)。「乗換が少ない」や「徒歩が少ない」といった条件を指定できる。

最寄りの駅よりもバス停の方が近い状況なら、「ルートのオプション」にある「詳細設定」欄で移動手段をバスだけに設定しよう。バスを使ったルートに絞り込める。

また、目的地が同じでも電車やバスの路線によって混在状況は異なる。到着時間よりも少しでも座れる可能性がある路線を選びたい場合もある。図6の「ルート比較ツール」を開くと、時間帯ごとに複数のルートと比較・検討できる。

Googleマップより詳細な条件でルートを検索できる地図サービスもある。ゼンリンデータコム「いつもNAVI」では、歩行ルートに標準の「おまかせ」に加え、「階段少ない」「屋

2 移動が楽なルートを選びたい

●乗り換えや徒歩が少ないルートを選択する



図5 利用交通機関や移動条件を選ぶには、経路結果に表示される「オプションを表示」をクリックする。バスでの移動や乗り換えが少ない経路などを優先して検索できるようになる

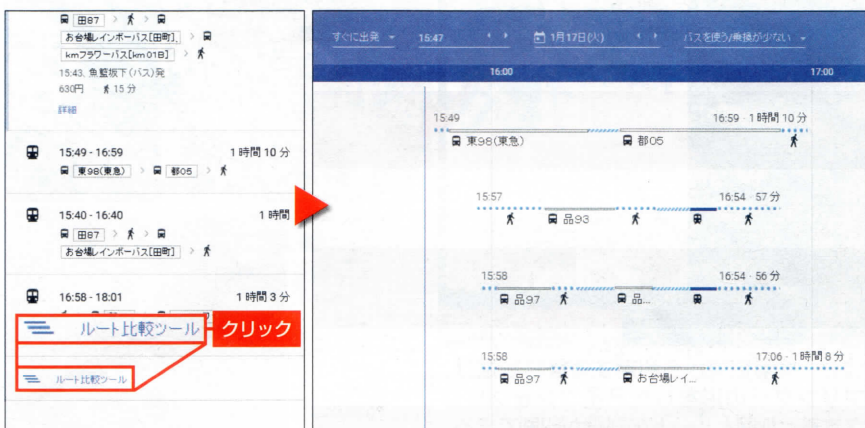


図6 「ルート比較ツール」をクリックすると各経路が時間軸で比較できるようになり分かりやすい

●歩行時に階段の上り下りや雨に濡れるのを避ける



図7 ゼンリンの地図サービス「いつもNAVI」は、歩行ルート検索時に「階段少ない」「屋根多い」などの条件を設けられる

3 サービスのガイド機能を活用

● 移動経路の検索結果をプリントアウトする



図8 検索結果から利用する経路を選び、プリンターの形をしたアイコンをクリックすると地図とルートの詳細が印刷できる。環境によっては印刷時にサイズの調整が必要になる場合がある

● 音声ナビで自動車での移動をサポート



図9 Google マップのアプリでは、経路検索時に表示される自動車アイコンをタップすることで音声ナビを利用できる。自動車の移動に応じて道順が音声で案内される

根多い]「大通り優先」といった条件を指定できる(図7)。通常だと目的地までの最短ルートで検索されることが多いが、条件を指定すると多少迂回しても合致するルートが優先される。階段の上り下りが多い場所や雨や雪など天候の悪化が予想される状況なら、ぜひ利用したい。

Google マップなら、経路検索で調べたルートをスマートフォンに転送可能だ(24~25ページを参照)。ただし、移動中に電波の状況が悪くなればスマートフォンでルートを確認できなくなる恐れもある。念のため、調べたルートをプリンターで出力して一緒に所持しておくで安心だ(図8)。そのまま印刷するとレイアウトが崩れていることがあるので、プレビュー画面で確認し、必要に応じてサイズを調整しよう。

お手軽なスマホナビ

自動車での移動には音声によるナビゲーションが欠かせない。目的地を設定すれば、目的地までの道りが音声で案内されるので、運転に集中できる。一方で、車載ナビは地図データの更新料が意外に高額だ。地図データを古いままにしておくと、新しくできた観光スポットや商業施設などが選べない場合がある。

スマートフォンやタブレットの「Google マップ」アプリなら、GPSを使って車載ナビとして使える(図9)。車載ナビに比べると安価な上、地図データも最新のものが利用できるメリットがある。

使い方は簡単。目的地を検索して、表示される自動車のアイコンをタップすればよい。目的地に到着するま

VICS▼

渋滞や交通規制の情報をカーナビゲーションシステムにリアルタイムで配信するシステム。情報は道路に設置されたアンテナやFM放送を通じて提供される。

プローブ▼

走行中の自動車からのデータを集めることで得られる渋滞情報を指す。速度計やブレーキなどを制御するセンサーとカーナビなどの通信機器を組み合わせる。

SoC▼

システムの主な機能を1チップに集約する方式あるいはその方式を採用したチップ。実装面積が縮小し、CPUなどに比べてコストや消費電力を抑えられる。

2017年版

地図サービス
逆引き超便利帳

●無料ながら高性能なカーナビアプリ



図10 「Yahoo!カーナビ」は自動車の音声ナビに特化したアプリ。有料道路の入り口などでは映像でも案内する



図11 別売でハンドルに取り付けられる専用リモコンを用意する。画面操作や音声検索機能の呼び出しなどが運転中でも可能になる

で音声で案内が続く。

より本格的な音声ナビアプリとして「Yahoo!カーナビ」も登場している(図10)。トンネル内でもナビを継続できるほか、有料道路の出入り口や大きな交差点などの要所に近づくにつれて映像で案内されるなど、車載ナビに匹敵する機能の高さが特徴だ。VICSやプローブといった渋滞情報にも対応する。また、無料アプリながら、専用のリモコンを別途販売している。ハンドルに取り付ければ運転中でもスマートフォンに触れることなく操作できる(図11)。

完全なハンズフリー操作を実現したのが、ナビタイムジャパンの「カーナビタイム」だ(図12)。スマートフォンに向かって「ガソリンスタンド」「次」など音声で呼びかけるだけで目的地を設定できる。「ボイスコントロール」の利用は月額500円かかるが、契約から2か月間は無料で利用でき、中途解約も可能だ。

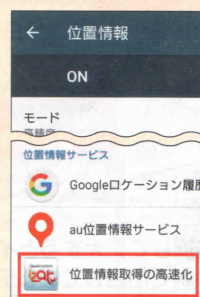
●課金すれば完全なハンズフリーが可能



図12 月額500円(クレジットカード決済時)で利用可能な「ボイスコントロール」機能が便利。運転者の問いかけに応じてルートを自動設定する

GPSの精度を改善する新技術

スマートフォンで音声ナビを使うと、自動車の速度に追従できず、正常に動作しないことがある。原因の一つは、GPSの精度が誤差数百mと低いこと。クアルコムのSoCを搭載した一部の携帯端末は高精度な位置情報取得技術「iZAT」に対応する。有効にすると誤差が数m程度と精度が高くなる。



一部のAndroid携帯端末は、高精度な位置情報取得技術の「iZAT」を利用できる(左はauの「SOV33」)

ストリートビューや衛星写真で 目当てのお店を下調べ

1 止めやすい駐車場を探す

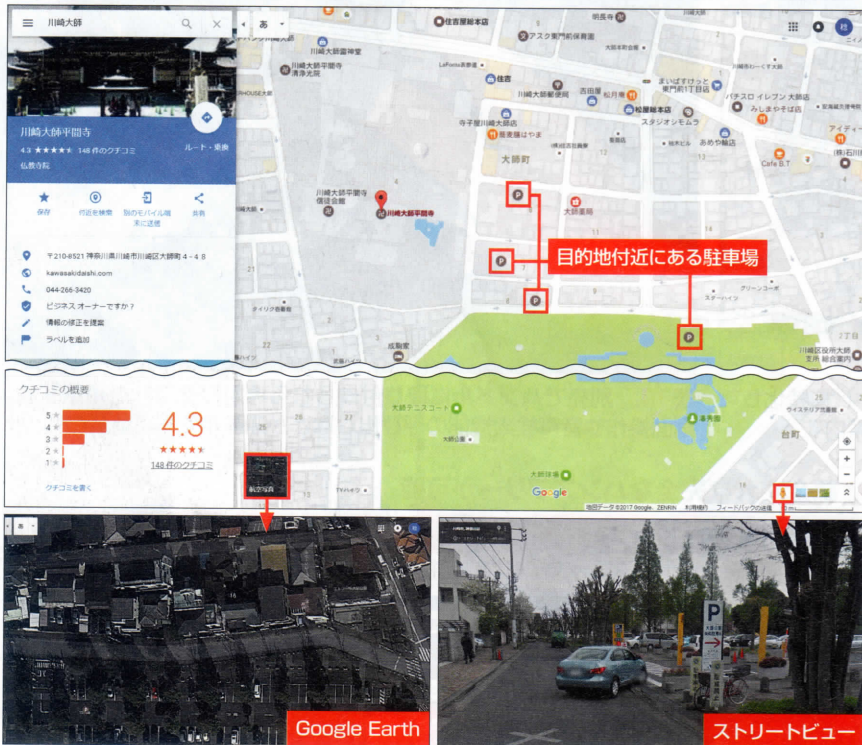


図1 駐車場のおおまかな収容台数や広さを調べるには「Google Earth」に切り替えて衛星写真で見ると分かりやすい。駐車場の入り口や付近の道路状況はストリートビューで確認できる

せっかく出かけるなら、見どころのある観光スポットや評判のレストランを人混みを避けて訪ねたいもの。円滑な行程を組むには、訪問先の下調べが不可欠だ。Google マップは現地の状況を調べるのにとってつけのツール。活用しない手はない。

Googleマップの機能を駆使

自動車で遠出するなら、真っ先に確保したいのが駐車スペースだ。観光地などでは、規模が小さい駐車場を選んでしまうと駐車待ちで長い時間待たされる恐れがある。屋外の駐車場なら、地図表示を衛星写真に切り替えるとおおまかな規模が分かる(図1)。また、大型で駐車がやや難しい車は、Google マップのストリートビューで、駐車場の出入り口や駐車スペースの幅などを事前にチェックするとよい。

最近では大型の商業施設も注目のスポット。ただ、フロアごとにたくさん店舗が並ぶので、巡るだけでもひと苦労だ。Google マップで施設を選択して拡大すると切り替わる「インドアマップ」で、フロアごとの店舗やエレベーターの位置など、移動経路を確認しておこう(図2)。全ての施設がインドアマップに対応しているわけではないが、有名な施設であれば対応していることが多い。

また、インドアマップ表示中にペグマンをクリックすると、色の付いた点が表示されることがある。これらは施設内で撮影された写真のポイ

2 店の内装をインドアマップで確認

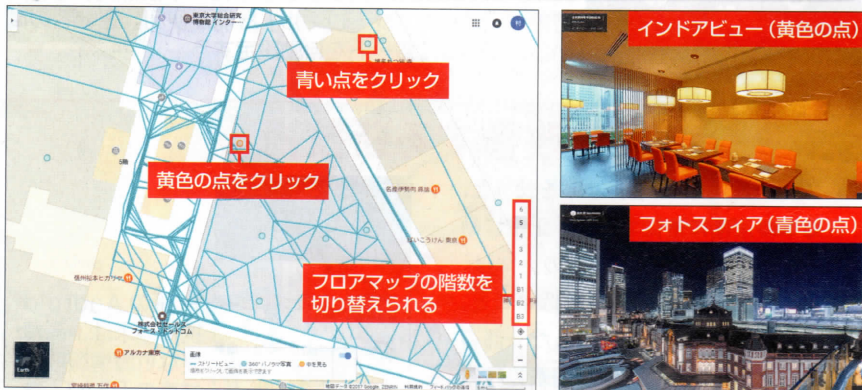


図2 一部の施設は選択して拡大するとインドアマップに切り替わる。施設内で出店しているテナントが表示され、右端のダイヤルで建物の階数が切り替わる

図3 インドアマップでペグマンをクリックすると地点ごとの写真が見られるようになる

ントを示すもの。ストリートビューの屋内版だ。黄色い点は店舗内の様子、青い点はユーザーが投稿した施設周辺の風景になる(図3)。

予約まで“一気通貫”

Google マップに登録されている各店舗にはアイコンが割り振られている。図柄の内容は、フォークとナイフが飲食店、コーヒーが喫茶店、かばんがその他の店舗を表している。

アイコンをクリックすると、店舗の詳細情報が表示される(図4)。情報量は店舗ごとに差があるが、通常は営業時間や混雑する時間帯などが表示される。落ち着いて過ごしたいのなら、混雑状況や閉店時間は必ず確かめておきたい。

店舗によってはユーザーの口コミが表示される。投稿数と店舗の評価は比例する傾向にある。評価は5段階で、星の数で表示される。全ての内容をうのみにすることはできないが、参考になる意見は多い。また、一部のレストランやホテルは、グルメ情報サイトや旅行案内サイトとリンクしている(図5)。地図上から直接予約ページに移動できるので利便性が高い。

目当ての店が臨時休業や貸し切りで閉まっている、スマートフォンがあれば別の店を外出先から簡単に検索できる(図6)。Google マップで現在地点の地図を開き、「レストラン」で絞り込めばよい。

自動車での移動が多い人もスマートフォンは役に立つ。「Yahoo!カーナビ」で付近のガソリンスタンドを調べると、ユーザーが投稿したガソリン価格を確認できる(図7)。

3 評判のレストランを予約する



図4 フォークとナイフのアイコンをクリックすると、口コミや混雑状況、営業時間など、該当の飲食店に関するさまざまな情報が表示される



図5 店舗によっては「席を予約する」という項目があり、事前に席を予約できる。クリックすると「一休.com」や「ぐるなび」など外部の予約サイトに切り替わる

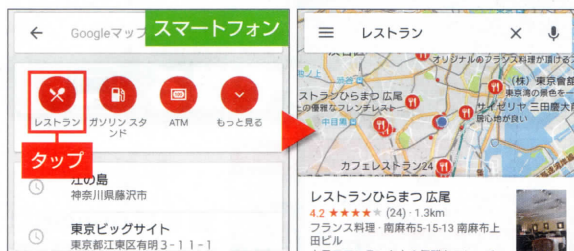


図6 外出先で飲食店を探すなら、スマホでGoogle マップアプリを開き、検索欄をタップしてから「レストラン」を選ぶ。パソコンと同様の情報が得られる

4 ガソリンスタンドを料金で選ぶ



図7 Yahoo!カーナビでガソリンスタンドを検索して、表示されている緑色の点→店舗名の順にタップすると、その店のガソリン価格が分かる場合がある

落とし物や探し人を 地図サービスで見つけたい

1 スマホの紛失場所を特定する



図1 Android端末は「Android デバイスマネージャー」で所在を確認できる(左)。事前に「設定」→「Google」→「セキュリティ」→「Android デバイスマネージャー」にある2項目が有効になっている必要がある(右)



図2 所有するiPhoneの現在地は「iCloud」にアクセスして「iPhoneを探す」で分かる(左)。スマートフォンで「設定」→「iCloud」→「iPhoneを探す」の順でたどると設定を確認できる(右)

2 落とし物を当日の足取りで探る



図3 「Google ロケーション履歴」を開くと、端末が取得した位置情報が時系列で表示される。物を落とした当日の足取りを確認できる



図4 ロケーション履歴を記録する設定は、Android端末だと「設定」→「Google」→「位置情報」→「Google ロケーション履歴」(左)、iPhoneだと「Google Maps」アプリのメニューで「設定」→「ロケーション履歴」の順に開くとある(右)

どんな人でも貴重品を紛失したり、連れとはぐれたりすれば冷静ではいられない。一刻も早く探し出したいと思うのが人情だ。地図サービスを使えば、紛失場所や探し人の特定が容易になる。いざというときに備え、設定手順を紹介しよう。

圏外だと使えないことも

常に持ち歩くスマートフォンは危険と隣り合わせだ。プライベートな写真や住所録など、その内容はまさに個人情報の固まり。万が一紛失すると、悪用される恐れがある。

紛失したらまず試したいのが自分の電話番号に電話をかけること。遅りで着信音や振動音がしない場合は、スマートフォンの位置検索機能を利用しよう。パソコンのWebブラウザーを開き、Android端末は「Android デバイスマネージャー」、iPhoneなら「iPhoneを探す」のサイトを開く(図1、図2)。スマートフォンと同じアカウントでログインすれば、地図上に端末がある位置が表示される。

端末の位置検索機能を利用するには、事前に該当する設定を有効にしておく。端末の検出にはGPSのほか**基地局**の電波なども利用するため、必ずしもGPSを有効にしておく必要はないが、検出精度が下がる場合がある。また、端末が電波の圏外にあると利用できない。

財布や鍵といった貴重品を紛失した場合は、当日の足取りをたどるしかない。ただ、焦りが生じると、当

基地局

移動通信体が無線で接続するための拠点のこと。携帯電話では1つあるいは複数の基地局と通信する。通信カバー範囲は数百mから数kmと幅がある。

日の行動を明確に思い出せないことがある。そのような心理状態に陥る前に、Googleマップの「ロケーション履歴」ページを開こう(図3)。画面左上のタイムラインで紛失した日を選ぶと、スマートフォン内蔵のGPSや基地局の電波などで取得した当日の移動履歴が、Googleマップに表示される。当日の行程から、貴重品を落としそうな場所に目星を付けよう。ロケーション履歴は、スマートフォンからも確認できる。Googleマップアプリを開き、メニューの「タイムライン」をタップすればよい。

ロケーション履歴を残すには、事前にAndroidスマートフォンの設定を有効にしておく必要がある(図4)。iPhoneの場合は「Googleマップ」アプリを入れて設定することで、ロケーション履歴を利用可能になる。なお、通信圏外のエリアでは履歴を記録できないことがある。

相手に位置情報を送信

待ち合わせをした相手が場所を間違えてしまい、待ちぼうけを食らいそうな場合は、スマートフォンのGoogleマップアプリを使って自分の位置を知らせるとスムーズだ。地図上で自分の居場所をタップして、その地点の詳細画面で「共有」ボタンをタップすると、現在地の地図データを相手に送ることができる(図5)。送信方法はメールやショートメッセージ、SNSなどが選べる。

混雑の激しい場所だと、落ち合えても途中ではぐれてしまう恐れがある。もしiPhoneユーザー同士なら、標準の位置情報共有アプリ「友達を探す」が役に立つ。それぞれの端末

3 はぐれた連れに居場所を知らせる

●メールやショートメッセージで現在地を送る



図5 Googleマップアプリでは、タップした地点のリンクをメールやショートメッセージなどで送ることができる

●iPhone同士ならリアルタイムで所在が分かる

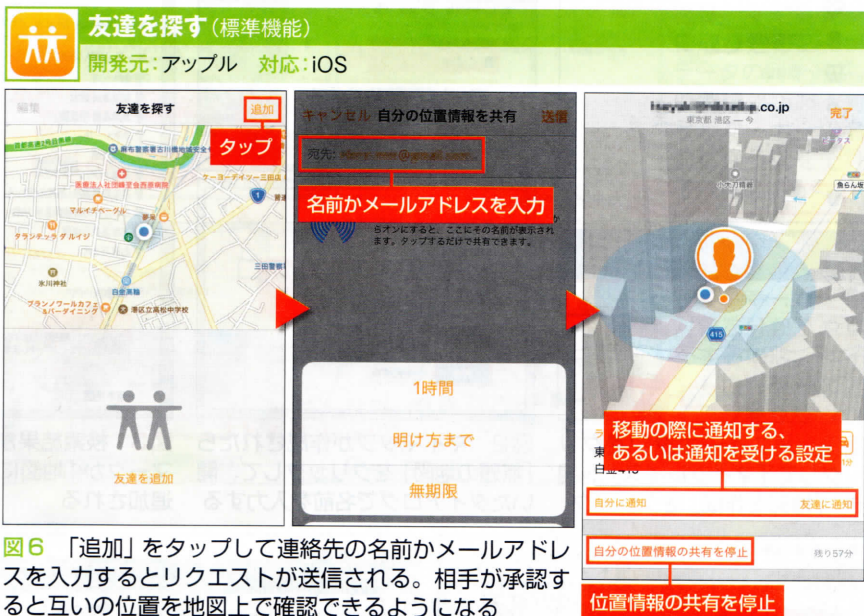


図6 「追加」をタップして連絡先の名前かメールアドレスを入力するとリクエストが送信される。相手が承認すると互いの位置を地図上で確認できるようになる

で起動すると、お互いの居場所を常に把握できるようになる(図6)。位置情報を発信し続けると盗聴される危険があるが、認証したユーザー以外は通信できない仕組みなので、悪用されるリスクは小さい。

位置情報を共有するには、片方のユーザーがリクエストを送り、もう

片方の相手に認証してもらえばよい。地図上に相手の位置がアイコンで表示されるようになる。位置情報の共有時間は「1時間」「明け方まで」「無期限」から選ぶ。メイン画面で「自分の位置情報の共有を停止」をクリックすれば、設定時間の途中で交信を中断できる。

住所録や災害情報を活用 何かと役立つマイマップ

1 マイマップでお気に入りの場所を巡る

よく訪れる飲食店や旅先で巡りたいスポットは、Googleマップの「マイマップ」に保存すると便利だ。マイマップは、クラウド上で管理・編集できる自分専用の地図のこと。パソコンからもスマートフォンからも、いつでもアクセスできる。

マイマップはメニューの「マイプレイス」→「地図を作成」をたどると作成でき、地図のタイトルやコメントも付けられる(図1、図2)。地図で場所を直接選んで「地図の追加」をクリックするか、検索して項目の右にある「+」をクリックするとお気

に入りの場所が登録される(図3)。プロットされるマーカーの外観はやや単純で、マーカーごとの区別がしにくい。連番や名前を付けて色も変更すると分かりやすい(図4、図5)。スマートフォンでもマイマップを開いて確認しよう(図6)。

●Googleマップの「マイマップ」に登録

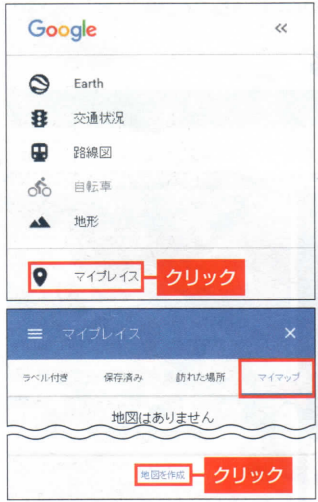


図1 メニューボタンをクリックして「マイプレイス」を開き、「地図を作成」をクリック

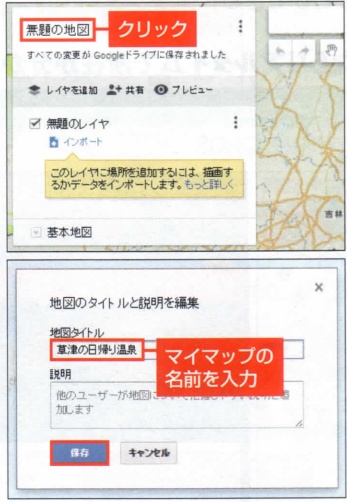


図2 マイマップが作成されたら「無題の地図」をクリックして、開いたダイアログで名前を入力する



図3 検索結果からマイマップに登録する目的地を選び、「+」マークが「地図に追加」をクリックすると、「無題のレイヤ」に追加される



図4 マーカーを変更するにはローラーペイントのマークをクリックする。「続番」は連番、「名前」は施設名が併記される



図5 目的地のマーカーを選び「スタイル」ボタンをクリックするとマーカーの色を変更できる。1つ選ぶと全てのマーカーに適用される



図6 パソコンで作成したマイマップは、スマートフォンでそのまま開ける

インポート▼

アプリケーションで作成したデータを、ほかのアプリケーションで読み込むこと。通常は、互換性のない形式のデータを変換して取り込むことを指す。

2 Excelデータをマップに流用する技

非常に多機能なGoogleマップだが、実はExcelファイルに入力した住所データを地図上に取り込むこともできる。得意先や付き合いのある人の訪問先などを、マイマップにプロットすれば、表のデータよりもぐっと見やすくなる(図1)。また、スマートフォンで同じアカウントにログインすれば、プロットした地点への経路の検索が簡単になる。

利用するには、パソコンのGoogleマップでアカウントにログインしてマイマップを新規作成し、住所データのあるExcelファイルをインポートすればよい(図2、図3)。Excelファイルには、インポートする住所とマーカーの名前を含んでいる必要がある。マーカーは名前を表示させると判別しやすくなる(図4)。

一方、Excel 2013以降には「Bing Maps」に円グラフをプロットする機能を備えている(図5)。視覚効果の高い資料を作成可能だ。Microsoftアカウントにサインインする必要があり、インターネットに接続していない環境では地図が表示されない。

●得意先の住所をマイマップに埋め込む

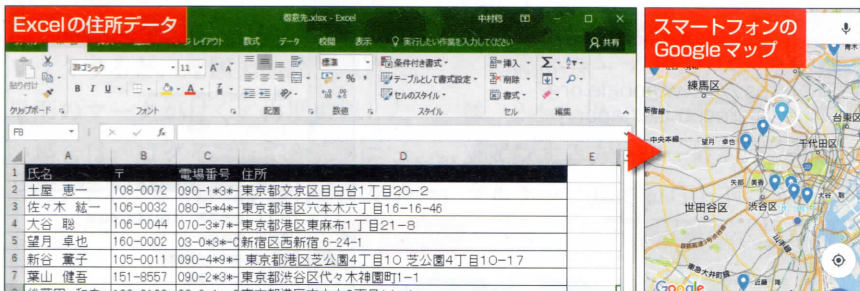


図1 Excelに保存した住所データは、Googleマップに転用が可能。得意先やひびきの店舗などをマイマップに登録すれば簡単に見渡せる



図2 マイマップを新規作成して名前を入力したら「無題のレイヤ」にある「インポート」をクリックする

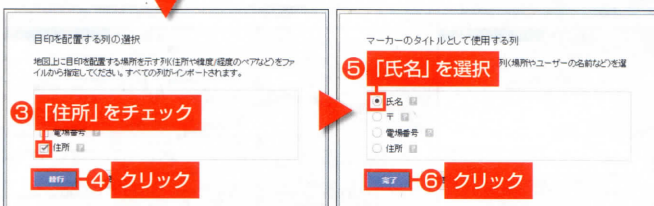


図3 マイマップに取り込むExcelデータの列を選ぶ。位置情報がある列と、マーカーの名前に使う列をそれぞれ指定する



図4 マーカーの対象を分かりやすくするには、ペイントローラーのアイコンをクリックしてラベルを「氏名」にする

●「Bing Maps」の地図上に円グラフを配置

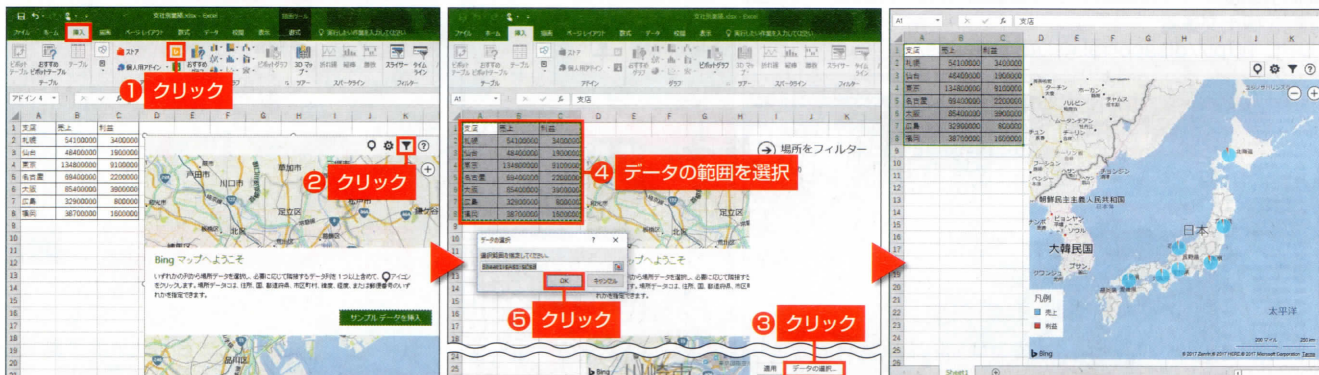


図5 Excel 2016では、表に地名や位置情報があれば、対応する数値の円グラフを「Bing Maps」の地図上にプロットできる。Excel 2013でも「挿入」タブ→「Office用アプリ」→「すべての表示」を選び「Bing Maps」を追加することで同機能を利用可能だ

3 災害時に備えたハザードマップを作成



●グーグルは災害時用の地図データを公開

Google クライシスレスポンス

提供: 米グーグル
URL: <https://www.google.org/crisisresponse/japan/>



図1 自然災害発生時における情報の提供や交換を目的としたサイト。「防災マップ」のページでは、Google マップに防災情報のレイヤーを重ねることで、地域ごとの災害時における危険度や避難情報が分かる



図2 地域の避難場所や災害時公衆電話の設置位置は、災害時に備えて特に覚えておきたい情報だ。表示した地図はWeb ブラウザーの印刷機能でそのまま印刷できる

●居住地域の地図に被害情報のレイヤーを重ねる

重ねるハザードマップ

提供: 国土交通省
URL: <http://disaportal.gsi.go.jp/maps/>

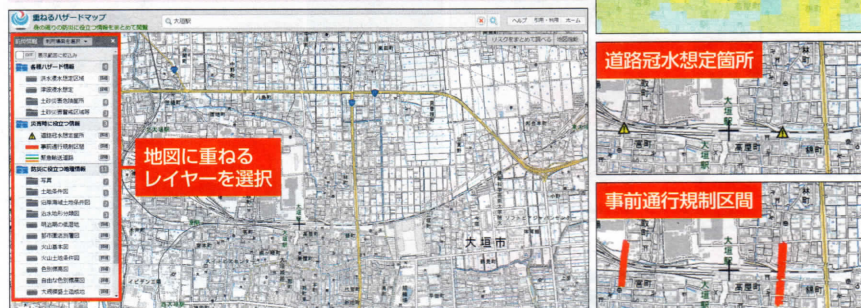


図3 地域ごとの地質情報や災害発生時に想定される被害情報などを提供する地図サービス。被害情報のレイヤーを選べると、該当地域では被害度やその範囲が表示される

いつ訪れるか分からない自然災害。大きな被害を及ぼした熊本地震は、まだ記憶に新しい。米グーグルの「Google クライシスレスポンス」は自然災害に際して、情報の提供や交換を目的としたサイト(図1)。この中には、地域ごとの避難場所や災害時の緊急公衆電話などの位置情報も含まれる(図2)。こうした情報をレイヤーとしてGoogle マップに重ねて表示させ把握することで、災害発生時に正しく行動できる可能性が高くなる。

地震や洪水など災害の種類ごとの被害想定情報を提供しているのが国土交通省の「重ねるハザードマップ」だ(図3)。居住地の地図を表示させた状態でレイヤーを重ねると、住んでいる地域がどのような災害に関してリスクがあるのか知ることができる。レイヤーの種類には洪水や津波、土砂災害などがあるので、それぞれ試してみるとよい(図4)。なお、いずれのサービスもマップの印刷が可能だ。紙で保存しておけば、防災意識を高めるのに役立つ。



図4 被害想定レイヤーを重ねると災害発生時の状況が見えてくる

レイヤー▼

元の画像に重ねる別の画像や処理のこと。レイヤーごとに異なる画像や処理を加えることで、必要に応じて表示や処理を変更でき、手間を軽減できる。

ピンチイン/ピンチアウト▼

タッチパネル画面で2本の指先を使って、表示の拡大や縮小を行う操作のこと。広げる操作をピンチアウト、狭める操作をピンチインと呼ぶ。

スワイプ▼

タッチパネル画面上で指を滑らせるように操作する方法。スマートフォンやタブレットなどでアプリや画面を切り替える際に使う。「フリック」とも呼ぶ。

覚えて得するGoogleマップの便利技

お気に入りの場所を星型アイコンで残す



よく訪れる場所や気になるスポットはマイマップに保存できるが、作成に手間がかかる。「少し気になる」程度の場所であれば、詳細情報の画面にある「保存」を利用しよう。ク

リックすると、地図上の該当地点に星形のマークが付く。再度確認したい場合は、ログインしてからメニューの「マイプレイス」を選び「保存済み」をクリックする。



図A 気になった店などの場所は、対象のアイコンをクリックして表示される「保存」で残せる。スマートフォンでは「マイプレイス」にある「保存済み」で表示できる

拡大/縮小を片手で



Googleマップアプリの拡大/縮小は、2本の指でピンチアウト/ピンチインする方法が一般的だ。実はダブルタップしてから上下にスワイプすれば、1本の指で操作できる。



図B スマートフォンならGoogleマップの拡大/縮小を片指で操作できる

目的地までの正確な距離を知りたい



例えば、最寄りの駅から目的地までの距離を測る場合、通常は画面右下の「スケール」と比べて目測する。ただ、とても大まかで、複雑なルートだと測るのが難しい。正確さを求めるなら、右クリックして「距離を測定」を選ぶ。曲がり角のたびにクリックしていけばよい。



図C 出発地点を右クリックして「距離を測定」を選び、目的地までクリックすると合計距離が表示される

マイマップで土地の面積を測る



「東京ドーム●個分の広さ」は、土地の面積を表すのによく使われる表現だが、実際の広さはどの程度なのだろうか。マイマップ作成中に「距離やエリアを測定」ツールを利用すると、クリックして囲んだ土地の面積を求められる。正解は約4.7ヘクタール。



図D マイマップを新規作成し、作成中に定規マークのアイコンをクリックすると、上図の手順で土地の面積を調べられる